



キク白さび病の防除対策

福島県農業総合センター **堀越** **紀夫**
 福島県園芸課 **鎌田** **拓郎**
 鹿児島県農業開発総合センター **今給** **梨征** **郎**
 秋田県農業試験場 **山形** **敦子**

はじめに

キクは国内の花き生産において重要な品目であり、令和元年農林水産省「生産農業所得統計」による産出額は597億円で花き品目の中で最も多くなっている。福島県においても、キク類の露地栽培が盛んで、小ギクは全国でも有数の産地となっている。そのなかで *Puccinia horiana* によって引き起こされるキク白さび病は、品質低下の要因となっており、特に本県では、小ギク品種「花の舞」で発病が多く、栽培上の問題となっている(図-1)。

キク白さび病は、キク栽培において重要病害であるため、古くから発生生態や防除対策についての研究が行われており、菌の感染と降雨や気温の関係、高温処理による防除や薬剤の効果(杉村・岡山, 1997; 杉村ら, 1998; 杉村・岡山, 2000)およびキク白さび病に対する品種間差(山口, 1981)等知見が集まっている。

しかし、キクは年間を通じて需要があり、様々な品種、

作型で栽培されていることから、キク白さび病対策をすべて抵抗性品種でカバーするには至っていない。また、定期的な薬剤散布にもかかわらず、発病を十分に抑えることができていないことから、キク白さび病菌の伝染環に応じた防除方法の選択や薬剤による適期防除について、防除体系を再構築する必要があった。

キク白さび病の伝染環は、前作圃場で保菌した株を親株とし、その親株から菌が感染した穂を次作の本圃に定植するなどして感染を繰り返している(図-2)。

キク白さび病菌の生態から見てみると、夏胞子は作らず、葉裏にできる黄白色～茶褐色の冬胞子堆(冬胞子の塊)が、10～23℃(最適温度は15～20℃)の温度と90%以上の湿度に遭遇すると、冬胞子から小生子が形成され、その小生子が植物体に感染する。その後、感染した小生子は、冬胞子を形成し、冬胞子堆を葉裏に作るか、菌体のまま親株に潜伏感染していると考えられている(図-3)。



図-1 キク白さび病の病徴

Control of Chrysanthemum White Rust Caused by *Puccinia horiana*. By Norio HORIKOSHI, Takuro KAMATA, Seirou IMAKIIRE and Atsuko YAMAGATA

(キーワード: キク, 白さび病, 温湯浸漬処理, 防除, *Puccinia horiana*)